

特集：次世代の人材を育成するために変革する教育システム

## 遠隔授業不適切学習行動と学習動機づけとの関係分析

白澤 秀剛\*, 岩屋 裕美\*\*

## Relationship between Learning Motivation and Inappropriate Learning Behavior in Distance Learning

Hidetaka SHIRASAWA\*, Hiromi IWAYA\*\*

## 1. はじめに

大学等における遠隔授業の取扱いでは、「同時性又は即応性を持つ双方向性（対話性）を有し、面接授業に相当する教育効果を有すると認められる授業科目については、遠隔授業の授業時数が半数を超えないという条件で面接授業の授業科目として取り扱うことができる」という発表がなされた<sup>(1)</sup>。遠隔授業は一部の大学では導入が進んでいたが、コロナ禍の緊急措置として一気に多くの大学の授業で導入され、今後の大学の授業においても遠隔授業の形態で実施される授業が一定数残っていくことが予想される。遠隔授業にはさまざまな方法があるが、主に講義動画をを用いたオンデマンド型授業と、Web会議システムを用いたライブ型授業に分類される。これらに加えて、eラーニングシステムを用いたCBTや、掲示板システムを用いたオンラインディスカッション、LMSを用いた課題などが組み合わされて遠隔授業が構成される。

遠隔授業の講義部分を担う講義動画やWeb会議システムによる同時双方向授業などは、自分のペースや自分の好きな環境で学習を進められるメリットがあり、このメリットは学生自身も認識していることが報告されている<sup>(2)</sup>。一方、対面授業は教師や他の学習者の存在が緊張感をもたらし、講義に集中できるため、講義動画に比べて学習効果が高いと学習者が認知しているとの報告がある<sup>(3)</sup>。教師や他の学習者から

の影響が少なくなる遠隔授業は、対面授業で発生する緊張感が得られにくい。また、CBTや掲示板、課題なども受講時間や受講環境の自由度が増した分、自分自身で学習を管理することがより一層求められるようになる。すなわち、遠隔授業は自分の学習プロセスに主体的に関与していくことが強く求められる学習形態であり、システムがより発展し受講時間や受講環境の自由度が増せば増すほど、自律性の高い学習動機づけが重要になると予想される。

Society 5.0における教育では、個別最適化された学びの実現のために、多様な学習の機会と場の提供が求められており<sup>(4)</sup>、遠隔授業は多様な学習機会の提供手段として活用されることが予想される。また、Society 5.0を支える人材は産業構造の目まぐるしい変化に対応するために常にスキルをアップデートする必要がある<sup>(4)</sup>。このスキルアップデートにおいても、遠隔授業の活用が期待される。このようにSociety 5.0時代の教育では、遠隔授業の積極的活用が期待されるため、遠隔授業のシステム面だけでなく、受講者の自律的な学習を促し、どのように学習効果を高めるかの検討も重要になってくる。

これまで著者らが行った遠隔授業における主体的学習に関する調査では、遠隔授業の仕組みを利用した不適切な学習行動（以後「不適切学習行動」）の存在が明らかになっている<sup>(5)</sup>。しかしながら、遠隔授業の不適切学習行動については、学業上の不正行為として

\* 東海大学理系教育センター(STEM Education Center, Tokai University)

\*\* 川崎市立看護大学 (Kawasaki City College of Nursing)

受付日：2022年6月15日；再受付日：2022年9月20日；採録日：2022年11月28日